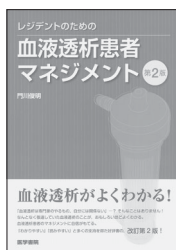


書評

〔評者〕
横尾 隆
慈大教授・腎臓・高血圧内
科



レジデントのための 血液透析患者マネジメント 第2版 門川俊明 著

● A5・頁216 2014年
定価：本体2,800円＋税
[ISBN978-4-260-01976-7]医学書院刊

とかく腎臓内科を苦手とする学生，医師の数は残念ながら非常に多い．これは一般の腎臓病学書が生理学や病理学から始まり，少々読み進めても腎臓病学の全体像が見えにくいため，学生や研修医に学ぶ前から敬遠されるか，途中で断念するためだと考えている．その中で，門川俊明先生の『レジデントのための血液透析患者マネジメント』が改訂され第2版となって出版された．初版はすでにベストセラーとなっているが，今回新たなエビデンスをアップデートする形となっており，高い評価を得るのは必至であろう．

門川先生は，学生に電解質や透析などの腎臓病学のセミナーを定期的に行い，大好評を博していると聞く．そのセミナーのなかで学生との対話のうえに培われた“わかりやすく教える”という秘訣がこの本には凝集している．ではその秘訣とは何であろうか．腎臓病学を大きな木に例えらるゝとしよう．その大きな木を描く時に，全体を端から端まで描いていくのは，途中で力尽きてしまったり，いびつな木になってしまったりする．しかしまず幹の部分だけしっかり描いたうえで，必要に応じて枝葉あるいは花や実を描き込んでいくと，各個人の能力や興味が違っていても全体像が壊れない木が掛け

るであろう．門川先生の執筆書はこの幹と枝葉をしっかりと分別して幹の部分だけを取りあえずまとめて平易に解説しているのゝ，腎臓病を苦手とする学生，若手医師に取っ付きやすいことがうけていると私は考えている．

本書も例に漏れず，腎臓病の知識がほとんどない学生や研修医にぜひ薦めたい良書である．また，あまり成書で取り扱われないコストの問題や，社会的サポート，経腸栄養のレジメなど，実臨床で真っ先に必要となる情報が非常にコンパクトにまとめられているので実践的な内容となっている．したがってタイトルに“レジデントのための”とあるが，対象はもう少し広く，若手病棟医など透析を専門としない腎臓内科医にちょっとした知識の整理のための参考書として活用されることが薦められる．また，“血液透析患者マネジメント”とあるが，保存期腎不全の管理法についてもかなり詳しくページを割いており，腎不全患者全体のマネジメントの指南書と考えたほうがよいかもしれない．今回のアップデートで，最近のエビデンスに基づいたガイドライン情報もふんだんに盛り込まれており，ぜひ手に取って内容をみていただくことをお勧めする．